

私たちの道

MCWAYを感じる

～ ある企業の改善から学んだこと ～

1. ある製造業の改善活動

- ・現在支援させて頂いている製造業 T 社は、過去の投資の失敗から資金調達が困難となり、設備更新ができずに、年々競争力を失う状況にありました。
- ・そこで、会社は5年ほど前に、工場の統廃合を決断するとともに、金融機関からの協力を得て老朽化設備の更新にも着手しましたが、当初は思うような効果を上げることができずにいました。
- ・こうした状況を踏まえ、会社はここ数年、不良率の低減をはじめとする製造工程の改善に本腰を入れて取り組み、今では製造面での課題はほぼ解消するに至っています。
- ・実は、この T 社については5年ほど前（前職時代）に、財務面からの支援を行った繋がりがあったため、私自身、当時の製造現場も知っていたのですが、数年ぶりに訪れた現場の変化（改善）に、驚きと感動を感じる場面に遭遇しました。

2. なぜ改善ができたのか

- ・MCWAYの「みらいの知恵」の中に、「人」「組織」を動かす原理について説明している記述があります
情報の共有→価値観・方向性の共有→理解→納得→実行→継続
- ・私なりにこの会社の変化を考えると、特に以下の点が素晴らしかったのだと感じます
 - 1) 情報の共有
(ex) 現場を知らない後継社長という外部からの厳しい声を浴びた経営者が、プライドを捨て、工場長たちと問題を共有し、彼らの力を引き出したこと
 - 2) 理解・納得
(ex) 明確な定量目標を設定し、「判断基準」を共有するとともに、「成果」が見える化したこと
(ex) 工場長と従業員との隔たりのないコミュニケーションが日常的にあること
 - 3) 実行・継続
(ex) 現場が役割を認識して実行し、成果を得るので、行動に「やる気」もついてきていること

3. 学びとして感じたこと

- ・「人」「組織」を動かす最初の一步は、情報共有。これにより健全な緊張感を涵養する
- ・ただし、事実だけではなく、道筋を示し、判断基準を共有し、成果を確認できる仕組みも必要
- ・成果が見えれば、やる気もついてきて好循環に結び付く
- ・全てのプロセスで、コミュニケーションが必要。これにより方向性の再確認とタイムリーな軌道修正が可能